保護司みらい研究所　第１回全体会

令和４年１２月１７日（土）１４：００－１７：００　＠東京：更生保護会館

保護司みらい研究所は、保護司の活動や意識の実相、保護司会や保護司制度の動態、それを支える社会・文化的諸要因、コミュニティや立ち直りに与えるインパクトなどを多角的にかつ実証的に研究し、HOGOSHI を世界に広げ、保護司制度の未来を構想することを目的とし、全体会と分担研究を同時進行で行うスタイルで研究を進めています。

第１回全体会では、最初に、長年保護司を務めてこられた小林研究員から、保護司との出会いから現在に至るまでの保護司活動を振り返りながら、次世代の保護司への期待を込めて講演していただきました。次に、高橋研究員から、「変容する地域社会における保護司（会）の効果的な在り方」に関する分担研究１の研究リーダーの立場から、今後の研究計画等について発表していただき、最後に今福代表から、保護司みらい研究所が行う保護司制度総合的研究プロジェクトにおける問題意識と今後の活動の方向性について発表しました。

第１部　講演 「保護司として、そしてこれから」

小林聖仁研究員

最初の小林聖仁研究員のご講演では、「人は自然や多くの人々のお陰で生かされて生きていることを忘れるなよ」という父の教えに背中を押され保護司になられたことや、ご苦労の連続であった保護司の活動のなかでも、相手に裏切られることはあってもこちらからは決して裏切らず辛抱強く寄り添っていかれ、いつしかその「やりがい」が「生きがい」に変わっていったことについて話されました。

また、法改正で保護司会が法定化されて以降、保護司組織による活動がクローズアップされ、犯罪予防活動などの地域活動が活発化してきたことなどについて触れられ、保護司が担う更生保護は、個々人の立ち直りの支えとなることに留まらず、犯罪をする人や非行少年を生まない地域づくり、人と人とが支え合って心豊かに生きられるまちづくりを担っていくことも更生保護であり、それも同じように大切であることなどについて述べられました。

最後に、保護司制度をめぐる状況の変化は激しく、またコロナ禍の影響を受ける中で、社会的孤立や孤独が大きな課題になっている中、BBS 会の支援など、若い人への

働きかけの必要性を指摘されて、ご講演を締め括られました。

保護司や保護司制度の現状と課題を、ご自身の体験を踏まえつつ、それを担う個人、組織、活動、そして社会的役割などの多様な側面から解き明かしていただき、その後の質疑応答も含めて、今後保護司のみらい像を描いていく出発点となったものと思います。【今福記】

第2部　研究 「分担研究1の問題意識と研究構想」
高橋有紀研究員

次の高橋有紀研究員のご発表では、分担研究1の問題意識を深掘りされたうえで、今後実施される調査研究の方向性について解説されました。

これまで保護司制度が基盤としてきた地域社会の像はどのように変容しつつあるのか、そのなかで保護司でなければ果たせない役割は何なのか、そのために保護司が持つ強みをどのように発展させていく必要があるか。

このような重要な論点について、地域福祉学が目指す方向性を踏まえた考察や、ケアし合うまちづくりに意識的に取り組んでいる特色ある町などで、保護司（会）が果たしている役割について調査を行うなどの方向で検討していることについて説明がありました。

また、質疑応答では、さらに自薦の場合の考え方の整理の必要性などの提案がなされました。

「地域社会」と「保護司（会）」が共鳴し合う関係性がどのようなものかを明らかにし、それぞれのあり様が変容していく中で、どのような「保護司（会）」像を描き、また、それがどのような効果を地域にもたらすことを期待するか、という大きなテーマを実証的な観点を押さえつつ明らかにしていく、この分担研究1の今後の進展に期待してまいりたいと存じます。【今福記】

第3部　報告 「保護司みらい研究所の今後の活動」
今福章二代表研究員

今後、保護司みらい研究所においては、

①誰一人取り残さない社会に向けて世間知を今後もリードしていくための原理は何か

②対象者と寄り添いケアする関係性を築き、デシスタンスを促進するため、官民協働態勢とそこでの保護司の役割をどのように再構築していけばよいか

③ソーシャルキャピタルとしての社会的認知を高め、期待される効果を発揮するために、どのように活動を行っていくべきか

④保護司・地域社会の意識・価値観等の変化を踏まえ、保護司の活動条件・環境はどうあるべきか

といった点について、研究員等の皆さんと一緒に深めていき、持続可能な保護司制度の未来を描いていければと考えております。

【今福記】